

【時代とともに変わる授業の姿】

本校で保管している古い卒業アルバムを見ていたら、60年ほど前の授業の様子分かる一枚が出てきました。ここに写っている人たちは、今は74～5歳ですね。

それはさておき、当時の授業は写真のような講義型が当たり前でした。「教師がしっかりと教え」、「生徒はしっかりと話を聞きノートをとる」スタイルです。また、より多くの漢字や歴史を覚えることや、より早く計算できる能力が高く評価されていました。ちょうど社会は戦後から高度経済成長期に移り変わるころで、多くの製品をより早く製造することで国力を上げていた時代です。そういう社会情勢のニーズに合っていた授業の姿だったのでしょう。

（余談ですが）保護者の皆さんが中学生だった30年ほど前でも、このような授業が主流だったのではないのでしょうか。社会の仕組みは先に述べた状況から変わりつつある頃だったと思います。残念ながら社会の変化に授業の姿が追い付いていなかったのだと反省するばかりです。

時は平成・令和へと流れ、社会にある程度の製品が整い、先の時代のような生産性だけを追求するのではなく、一人一人のニーズを満たした希少価値のある製品が求められるようになりました。これからは、10年20年の単位から3～5年の単位で世の中の流れを先取りした経営戦略を持つ企業だけが生き残ると言われています。こういった想像する力や考える力を持った人材が社会を動かしていくのです。

そして学校では、このような社会を担う人材の育成が求められています。

下の写真は、本校でよく見られる授業の姿です。講義型からグループで議論する型に変化しています。生徒は、一人一人が課題を把握し、自分の考えをまとめていく過程でグループでの議論が行われます。そして考えをまとめたり、議論したりするためにiPadが使われます。教師は、生徒が考える手立てを助言したり、生徒と一緒に批判し合ったりする役割を担います。

このように、本校では、これからも社会の変化に対応した授業づくりに積極的に取り組んでまいります。

